

高齢者支援事業部会 意見要旨

第2回 平成23年7月27日(水) 15:00~17:00 赤煉瓦文化館 会議室3

第3回 平成23年8月11日(木) 13:30~15:30 福岡市役所1503会議室

高齢者施策のあり方について

- ・ 元気な高齢者を増やすことが一番重要である。

【取り組みの視点】健康でいきいきとした豊かなシニアライフの実現

(施策区分) 社会参加活動への支援

- ・ 老人クラブや地域の行事などに参加して楽しむことで介護予防につながる。
- ・ 「団塊の世代」の地域コミュニティ活動への参加促進が課題である。
- ・ 一人で出かけるのが困難な人の送迎を、施設とタイアップして行っているが、ボランティアだけでは難しい。
- ・ 老人クラブという名称に抵抗を感じる人もいる。
- ・ 都心部ではマンション等の集合住宅が多く、オートロックで民生委員の祝い訪問などの活動がしにくくなっている。

(施策区分) 社会参加活動の環境整備

- ・ 老人いこいの家の有効活用の検討が必要。高齢者だけでなく高齢期に入る前の人も利用できるようにするなど工夫をすべきと思う。
- ・ 老人いこいの家は公民館との合築が増えてきて、稼働率が上がり、高齢者に限らず利用している。
- ・ 老人福祉センターにも「いきいきセンターふくおか」のように愛称をつけたらどうか。

(施策区分) 健康づくりの推進

- ・ 平均寿命よりも健康寿命を延ばすことが大切である。
- ・ 特定健診などのPRを積極的に行うべきだと思う。
- ・ 特定健診の指定医療機関が少ない。健診車などの活用も考えてはどうか。
- ・ メタボリックシンドロームという言葉が盛んに取り上げられるが、栄養不良の高齢者の問題もあり、総合的な健康づくりが必要。
- ・ 病院に通院しているため健康診断に行く必要がないと思っている人が多い。
- ・ 病院にかかっているにもかかわらず見落とされる病気があるので、健康診断は重要である。

(施策区分) 介護予防の推進

- ・ 市民にとっては、高齢者向けであるというよりも使いやすいかどうかの方が重要。参加したいものがあれば参加するし、それが介護予防にもつながる。

【取り組みの視点】 要援護高齢者の総合支援の充実

（施策区分） 在宅生活支援の充実

- ・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、24時間対応のサービスができれば在宅に戻れる人もでてくると思う。

（施策区分） 認知症高齢者支援体制の充実

- ・ 認知症の人の家族にとって見守りは重要。認知症サポーターについて、もっと広報を工夫した方がよい。
- ・ 年齢を重ねると出てくる物忘れは、病気ではなく自然な現象。それを認知症としてしまうことは問題がある。地域の中でお互いに支え合うことが重要。
- ・ 家族だけでなく、地域や団体、民生委員ともタイアップしてみんなで包み込むことが大事である。

【取り組みの視点】 地域支援体制の充実

（施策区分） 総合相談機能の充実

- ・ 地域によっては認知されてきているが、地域包括支援センターを知らない人が多い。
- ・ 地域包括支援センターは、「いきいきセンターふくおか」の愛称でPRをした方がわかりやすい。
- ・ 認知症相談コールセンターの設置を検討してほしい。

【取り組みの視点】 安全・安心な生活環境の向上

（施策区分） 高齢者居住支援

- ・ 住宅についての施策は充実してきている。

（施策区分） 人に優しいまちづくりの推進

- ・ ハード面だけでなく、例えばバスの車内の文字の大きさなどソフト面も大事なのではないか。